

H28年8月

～よく読まれている図書をご紹介します～

1. 潰瘍性大腸炎 正しい治療が分る本 2011年10月 法研
病気について詳しく書かれていますよ～
2. クロウン病・潰瘍性大腸炎の安心ごはん 2014年11月 女子栄養大学出版部
食べたい！をかなえる本です。病気になったのは、私の作った食事が悪かったのかと自分を責めたりしていないでこの本を出発点にしてみませんか？具体的に書いてありますよ
- 3 肝臓病の基本の食事 2014年6月 学研パブリッシング
外来患者さん、入院患者さん共に良く利用されています。検査値が高い、肝臓病の疑いがあると言われたら、本を手に取り生活を見直してみましよう。
4. 脳からストレスを消す技術 2010年9月 サンマーク出版
1日5分、太陽の光を浴びてリズム運動をするだけ・・・。セロトニンと涙が人生を変える・・・セロトニントレーニングに注目されたのでしょうか？
- 5 泌尿器科の病気 排尿と性機能の障害 2007年7月 日本医学館
泌尿器科は、男性と女性の尿路（腎臓・尿管・膀胱・尿道）と男性の生殖器（陰茎・睾丸・前立腺など）の病気を診る科です。特に高齢者の泌尿器科的病気に的を絞って書かれています

～開設当初からの利用者をご紹介します～

待ち時間が長いから・・・と来室された女性「どんなところかしら？患者図書室と書いてあるんだから私のように視力の低下した人でも利用できるかな？」と期待をしたそうです。「糖尿病」と診断されて気が付いた時には視力も低下し、眼科の医師から「美しいものが美しく見えなくなる」と言われた事がとてもショックだったと言われていました。

「病気の説明を映像で流してくれると良いんだけど・・・」と話されましたので、パソコンでの利用を紹介しましたが、有料でしたので、利用されずに退室されました。すぐ拡大鏡を用意して2回目に来室した時に用意したことを説明するととても喜ばれ、それ以来よく来られる様になりました。体調や生活状況を伺いながら、毎回疑問や質問に対応していました。提供した資料をご自分で拡大して読み、最近は「世界にひとつだけの自己管理ノート」を作られています。

「この間、胸が苦しくなり救急に罹ったんです」人間の体は、刻々と変化しているので、何が起こるかわかりません。早速心臓・血管系の本を読みながら医師の説明された内容を噛み砕くように読んでおられました。一人ひとり理解と状況が違うので、お気持ち伺いながら本の内容を紹介しています。